

まひ性貝毒原因プランクトンの種類について

当県で出現するまひ性貝毒原因プランクトンは、渦鞭毛藻類の *Alexandrium tamarense* と *A.catenella* の2種類です (写真1, 2)。

A.tamarense と *A.catenella* は、光学顕微鏡下で観察すると、外見は共に球形で茶色と非常に良く似ていますが、*A.tamarense* は *A.catenella* と比べ毒性が強く、より少ない数でも貝が毒化するリスクがあるため特に注意が必要です。

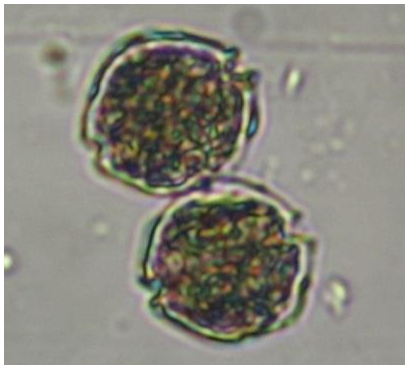


写真1 *Alexandrium tamarense*
(連鎖群体 (2細胞))

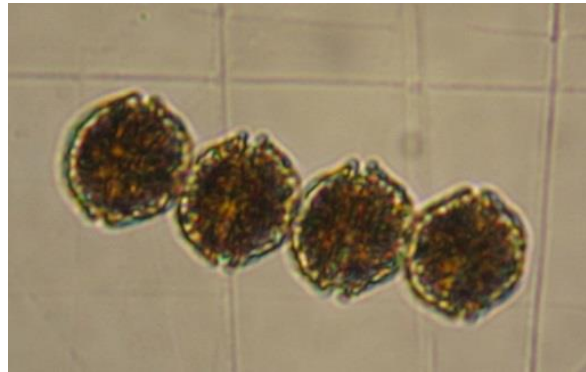


写真2 *Alexandrium catenella*
(連鎖群体 (4細胞))

A.tamarense は一般的に水温が 15℃以下になる冬から春に観察されます。大きさは 30～40μm で単細胞で観察されることが多く、まれに 2, 4細胞からなる連鎖群体を形成します。*A.catenella* は一般的に水温が 20℃前後になる春から秋に観察されます。大きさは 20～50μm で 2, 4細胞からなる連鎖群体がよくみられますが、さらに長い群体を作るときもあります。

A.tamarense と *A.catenella* の分類は上述のように出現時期や水温、群体数等から大まかに予想はできますが、より正確に判断する方法として、鎧板と呼ばれる殻の配列や特徴の違いを観察する方法があります。例えば、*A.tamarense* には鎧板の第1頂板に腹孔と呼ばれる孔がありますが、*A.catenella* には腹孔がありません (写真3, 4)。

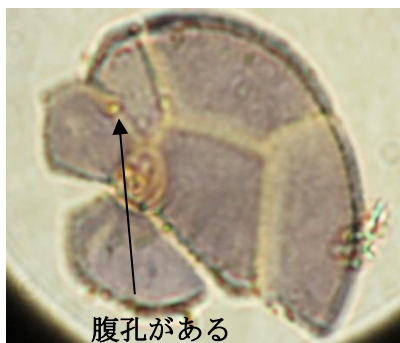


写真3 *A.tamarense* の鎧板

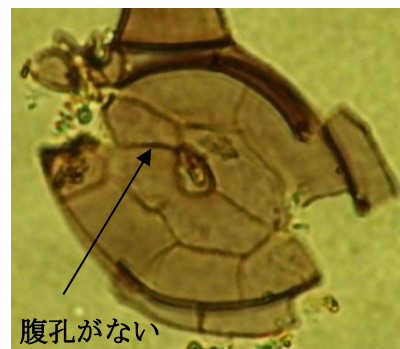


写真4 *A.catenella* の鎧板